

◆進級・卒業要件◆

本学部では進級および卒業するための要件を設けています。

下位年次から計画的に単位を修得しておくことが重要です。

◆進級要件◆

区分	履修要件
2年次への進級	1年次配当授業科目のうち、総計26単位以上を修得していること。
3年次への進級	1・2年次配当授業科目のうち、総計64単位以上を修得していること。
4年次への進級	1～3年次配当授業科目のうち、必修科目のすべてを含んで総計108単位以上を修得していること。

◆卒業要件◆

4年間以上在学し、(1)～(4)に示す要件をすべて充足しておくことが必要です。

1つでも不足している場合は「留年」となります。

(1) 卒業に必要な単位数

専門科目	96単位以上
教養科目	28単位以上
計	124単位以上

注．「職業指導」および教職に関する科目の単位数は進級・卒業要件に含めることはできない。

(2) 卒業に必要なGPA値

入学時からの累積GPA（後述）が1.3以上であること

(3) 卒業要件のうち、専門科目の履修方法

必修科目	56単位
選択必修科目 選択科目	【建築デザインコース】 40単位以上 ただし、つぎの条件のすべてを満たすものとする。 - 専門基礎群から10単位以上を修得。 - 専門コア群共通系の「地球環境論」、「まちづくり論」、「建築実務実践」から2単位以上修得、また「地球環境論」、「まちづくり論」、「建築実務実践」を除く科目から4単位以上修得。 - 専門コア群計画・環境系から6単位以上修得。ただし、「西洋建築史」、「日本建築史」、「近代建築史」から4単位以上を含む。 - 専門コア群構造・生産系から2単位以上修得。 - 少人数教育群実験実習系の「建築設計演習A」、「建築設計演習B」から4単位を修得。
	【建築工学コース】 40単位以上 ただし、つぎの条件のすべてを満たすものとする。 - 専門基礎群から10単位以上を修得。 - 専門コア群共通系の「地球環境論」、「まちづくり論」、「建築実務実践」から2単位以上修得、また「地球環境論」、「まちづくり論」、「建築実務実践」を除く科目から4単位以上修得。 - 専門コア群計画・環境系の「西洋建築史」、「日本建築史」、「近代建築史」から4単位以上を修得。 - 専門コア群計画・環境系の「建築環境工学Ⅲ」ならびに構造・生産系の「構造設計」、「構造力学Ⅲ」、「地盤工学」、「耐震工学・振動学」から6単位以上修得。 - 少人数教育群実験実習系の「建築環境工学演習」または「構造実験」のいずれか2単位を修得。
	【建築総合コース】 40単位以上 ただし、つぎの条件のすべてを満たすものとする。 - 専門基礎群から10単位以上を修得。 - 専門コア群共通系の「建築倫理」、「建築情報処理基礎」、「建築情報処理応用」の6単位を修得。また「地球環境論」、「まちづくり論」、「建築実務実践」から2単位以上修得。 - 専門コア群共通系ならびに計画・環境系の「日本建築史」、「西洋建築史」、「近代建築史」から4単位以上を含み、8単位以上を修得。ただし、「建築倫理」、「建築情報処理基礎」、「建築情報処理応用」、「地球環境論」、「まちづくり論」、「建築実務実践」を除く。 - 専門コア群構造・生産系から4単位以上を修得。 - 少人数教育群実験実習系の「建築設計演習A」、「建築環境工学演習」、「構造実験」から2単位以上を修得。
計	96単位以上

注．選択必修科目で修得した単位数のうち、所定の単位数を超える単位数は、選択科目の単位数として算定する。

(4) 卒業要件のうち、教養科目の履修方法

必修科目	1単位
選択科目	- 英語系、外国語系から8単位以上を修得。 - スポーツ系から2単位以上を修得。 - 人文科学系、日本語系から4単位以上を修得。 - 社会科学系、自然・科学技術系、地域志向系、キャリアデザイン系、共通基礎系、教養特別系から13単位以上を修得。ただし、自然・科学技術系の「産業技術史」、「科学技術教養Ⅴ」、「科学技術教養R」、「科学技術教養M」、「科学技術教養E」、「科学技術教養C」および「科学技術教養T」から2単位以上を含む。
計	28単位以上

◆G P A 制度について◆

本学部では、G P A 制度を導入しています。

G P A とは、「成績の評語」に対応する数値として、「G P (GradePoint)」を付与し、履修した授業科目の G P に単位数を乗じた値の総和に対して、同授業科目の単位数あたりの平均を算出した値のことです。これは各科目の成績平均値「G P A (Grade Point Average)」を用いて、単位数という学修の量だけではなく、成績評価に基づく質を重んじた学修をしてもらおうという制度です。

G P A は、各学生の指導担当教員が履修指導を行う際の指標として活用するほか、卒業要件に G P A 1. 3 以上であることが含まれています。履修申請した科目のうち不合格科目が多くある場合、G P A を下げることになりますので、計画的に履修登録し、履修放棄などは避けて、履修登録した科目は最後まで受講するか、履修辞退制度を活用することが重要です。

成績の評語と G P の対応表および G P A 計算式は次のとおりです。成績の評語は入学年度により異なります。

【2025年度以降入学生】

成績	評語	G P (グレードポイント)	可否
認定	T		認定
100点～90点	S	4	合格
89点～80点	A	3	
79点～70点	B	2	
69点～60点	C	1	
59点～40点	D	0	不合格
39点～0点	E		
評価不能	*		

【2024年度以前入学生】

成績	評語	G P (グレードポイント)	可否
認定	T		認定
100点～90点	A	4	合格
89点～80点	B	3	
79点～70点	C	2	
69点～60点	D	1	
59点～40点	E	0	不合格
39点～0点	F		
定期試験未受験、 評価不能	*		

$$\text{G P A} = \frac{(4 \times \text{S} \text{【A】の修得単位数}) + (3 \times \text{A} \text{【B】の修得単位数}) + (2 \times \text{B} \text{【C】の修得単位数}) + (1 \times \text{C} \text{【D】の修得単位数})}{\text{履修した授業科目の単位数の総和 (不合格科目の単位数含む・履修辞退科目の単位数は含めない)}}$$

※【】内は2024年度以前入学生の評語です。

◆単位修得状況欄の確認方法について◆

単位修得状況欄については【略称】で表記されます。

下表の正式名称を参照し、進級・卒業要件の確認にご活用ください。

成績用科目分類（略称）	成績用科目分類（正式名称）
判定対象	判定対象
専門科目	◆専門科目◆
必修	≪必修≫
選択必修	≪選択必修≫
専門コア	【専門コア群】
共通系	〔共通系〕
計画環境	〔計画・環境系〕
構造生産	〔構造・生産系〕
少人数群	【少人数教育群】
実験実習	〔実験演習系〕
選択	≪選択≫
専門基礎	【専門基礎群】
数学系	〔数学系〕
科学系	〔科学系〕
実験系	〔実験系〕
情報系	〔情報系〕
教養科目	◆教養科目◆
必修	≪必修≫
選択	≪選択≫
1. 英語	【英語系、外国語系】
英語外国	〔英語系、外国語系〕
留日事除	〔留学生科目（日本事情Ⅰ、日本事情Ⅱ除く）〕
資格語学	〔資格認定（語学系）〕
2. スポ	【スポーツ系】
3. 人文	【人文科学系、日本語系】
4. 社会	【社会科学系他】
社地キ共	〔社会科学系、地域志向系、キャリアデザイン系、共通基礎系〕
自然科学	〔自然・科学技術系〕
教養特別	〔教養特別系〕
留日事	〔留学生科目（日本事情Ⅰ、日本事情Ⅱ）〕
他学部	〔他学部・他学科科目（社会科学系に含む）〕
対象外	判定対象外
通常科目	≪通常科目≫
資格認定	≪資格認定≫

■問い合わせ先 教 務 課 072-800-1033/ 072-839-9106